

「違いを共に生きる」 心を大切にして、 お客様を出迎えたい。

中国語の学びを通して 柔軟な国際感覚も養う。

英語を中心に多様な言語や文化を学べるところに魅力を感じて、言語コミュニケーション学科(現・交流文化学科)に入学しました。4年間を通して最も力を注いだのが、中国語の習得です。1年次の必修科目で初めて中国語を学び始めて、そのことばの美しい響きに惹かれ、新しい言語を学ぶことに夢中になりました。馮(フォン)先生をはじめとする中国人の先生方が熱心に指導してくださったおかげで、着実に力を伸ばせたと感謝しています。3年次には馮ゼミの活動の一環として、中国・天津に約1か月間留学しました。さらにその年、馮先生に勧められて上海国際博覧会のガイドボランティアにも挑戦。現地の学生たちや幅広い年齢の人々と中国語で交流しました。

中国人の皆さんの勤勉さや心のあたたかさにつれて、メディアで報道される中国のイメージと実際の中国の違いを実感。偏見や先入観なく世界各国の人とコミュニケーションし、互いに理解し合うことの大切さを学びました。

大学で培った語学力、世界へと視野を広げて学んだ経験を活かし、人と関わり合える仕事がしたいと考えて、ホテル業界を志望。名古屋マリオットアソシアホテルへの就職を果たしました。

世界各国のお客様を いかに心地よく迎えるか。

新人時代はスカイラウンジでレストランサービスを学び、入社3年目に宿泊部フロントオフィス課に配属されました。現在、フロント業務に就いて4年目。チェックイン・

チェックアウト、レストラン案内・観光案内などの業務に携わっています。毎日、何百人というお客様と出会うことができ、一日として同じ日はありません。お客様お一人おひとりと向き合い、何を求めていらっしゃるのかを先回りして掴むことを常に心がけています。海外からのお客様も多く、在学中に磨いた英語や中国語の力が、重要なコミュニケーションツールとなっています。また、大学の理念「違いを共に生きる」を体験的に学んだことも、文化や価値観の異なる各国のお客様を心地よく迎える対応力につながっていると感じています。今後も相手に寄り添い、適切に行動できる力を養って、多くのお客様の笑顔に貢献していきたいと思えます。

愛知淑徳で学ぶ後輩の皆さんも、興味のあることから挑戦を重ね、人との出会いを大切に自分らしい道を拓いてください。



ホテルの顔となるフロントに立ち、笑顔を絶やさず、まごころを込めてお客様お一人おひとりとコミュニケーションしています。



大学3年次に上海国際博覧会(2010年)でボランティア活動。中国語の力を発揮して、日本館の周辺で来場者をガイドしました。

名古屋マリオットアソシアホテル 宿泊部 フロントオフィス課 谷口 百子さん

愛知淑徳大学コミュニケーション学部言語コミュニケーション学科を2012年3月に卒業。同年4月、株式会社ジェイアール東海ホテルズ(名古屋マリオットアソシアホテル)に入社。現在はフロントで国内外からの宿泊客を迎えている。